

2013年北海道同窓会秋季セミナーを開催しました。

去る2013年10月5日（金）、6日（土）に北海道同窓会秋季セミナーが小樽市にて、開催されました。

昨年2012年11月、村上会長の地元である帯広で開かれた北海道同窓会秋季セミナーの際、「来年の開催は、小樽」と決まりました。また当日、参加されていた伊藤同窓会顧問より、「せっかく遣るんだったら、社大も巻き込もうよ」という提案があり、結果、社大、同窓会、北海道支部の3者主催で「第1回日社大市民公開セミナー」（後日、大橋会長によれば、「第1回は、1978年の沖縄」とのこと）を開催することとなりました。

その後、村上会長を中心に北海道素案を纏め、伊藤さんを中心とした同窓会とも協議を重ね、かつ、3度の現地実行委員会で練りに練り、「第1回日社大市民公開セミナー&北海道同窓会秋季セミナー『地域社会福祉シンポジウム』」を実施することとなったのです。

－ 先乗り・伊藤さんたち来道－

10月4日（金）、伊藤顧問、加藤総務部長、畑戸校友室補佐が新千歳空港に降り立ちました。この日は、3人に高田（学部15期卒）も加わり、札幌市内の3校の高校訪問を実施しました。また、伊藤さんの強い希望もあり、道同窓会初代会長・野村健さんの墓参りをすることもできました。

夜は小樽宿泊とあって、市内の居酒屋さんで、小樽の海鮮ものを堪能してもらいました。この際、本学の最近の深刻かつ具体的な状況が出され、「同窓生としてもっと遣るべきことを遣っていかねばならない」ということで、4者の意見は合致しました。

多くの意味で有意義な「前夜祭」となったのでした。



（宏楽園ホテルさんホームページより 料理の写真

居酒屋さんの海鮮ものではありません。あしからず

－ 「地域社会福祉の近未来を共に語ろう」－

翌10月5日（土）、北海道らしい明るい青空の許、実行委員は続々と会場に集まって来ました。また、市内外の協力者たちも集まってくれ、簡単なミーティングのあと、大橋会長を中心に名刺交換なども行いました。

「市民公開セミナー・地域社会福祉シンポジウム」そのものは、小樽市の経済センター7階大ホールにおいて、13時30分より開始されました。

金子道同窓会事務局長（学部29期）の総合司会の許、村上道同窓会長（学部9期）のあいさつ、来賓の三浦小樽市福祉部長の祝辞があり、いよいよシンポが開催されました。シンポの司会は、地元小樽の□田さん（前出）です。

大橋元学長（学部7期）の基調講演を受けて、田原さん（道「こどもつくる」福祉専門員、子ども分野、学部31期）、伊藤さん（美瑛慈光会地域密着型事業部長、高齢分野）、木村さん（はるにれの里理事長、障害分野、学部9期）の3人が、自らの社会福祉実践を踏まえ、それぞれの社会福祉の地域づくりについて提言を行いました。

大橋会長の40分の基調講演「ニーズ対応型地域福祉の展開とコミュニティソーシャルワーク」は、地域福祉の概念から説き起こし、各地の実践例をふんだんに紹介しながら、ソーシャルワークの必要性と地域福祉の展望を語ったものとなりました。基礎編から実践編に至るまで、地域福祉の一連の流れが極めて明快に理解できるものとなっており、参加した市民からは、「大変良かった」、「もっと聴きたい」、「是非続編を」と絶賛される内容でした。

田原さんは、「子どもの発達を守るために－「子ども」から「あらゆる人」への視点を持って－」と題し、自らの経歴と経験を通じて、まず子どもという存在を明らかにしました。その上で、大人や専門職がなすべきものは何か、を提言しました。

続いて、伊藤さんは、「誰もが住み慣れた地域で暮らし続けるために一人の人を支えることが、みんなを支える」と題し、遠軽社協の経験を踏まえ、現在、美瑛で実践している取り組みを紹介しました。この中で、人はそれぞれの生活課題を他者の力を借りながら解決し、地域で暮らしていくことが重要であることを強調しました。その上で、新しい事業所を立ち上げるためには、地域住民がその主体者になる必要があり、事業所側はどう有効利用してもらうのかを考えるべき、と持論を展開しました。

最後に、木村さんの「当事者主体の当事者が造る福祉、市民が造る福祉」は、「民間社会福祉という最も厳しい現場」において歩んできたことを振り返りながら、ペアレントメンター、当事者研究、PAIの3つについて、それぞれ取り組んでいる方のインタビューを通じて、地域で暮らすことの意義を解明してくれました。

これを受けて、会場に集まった160人以上の市民、社会福祉等関係者等から、小樽の実情を踏まえた様々なご意見をいただき、会場が一体となって論議を深めていきました。1時間半程度の自由討論の中で、壇上の4人に加え、参加者の発言はのべ10人に及びました。最後に、シンポジストの4人が短時間で纏めを行い、盛り上がりが頂点に達した観があるにも拘わらず、終了時刻の17時を迎えてしまったのでした。

－ 夜の懇親会で、論議の続きが・・・－

シンポ終了後は、専用車にて、朝里川温泉の老舗旅館「宏楽園」に行き、参加者はまずは温泉に入って、ゆったりとしました。

18時30分からは、社大関係者とセミナーの運営協力をしてくれた小樽市内外の方々、約50人の懇親会が開かれました。支配人のあいさつのあと、まずは、校歌を全員で唱和しました。

続いて、大橋同窓会長が、特にご協力いただいた方々に礼を述べ、伊藤さんの音頭で乾杯、となりました。

その後、参加された方々からごあいさつをいただき、宴の座は段々と和んでいきました。また、あちらこちらで名刺交換をする場面も見られ、小さな輪が徐々に広がっていったのでした。



(宏楽園ホテルさんホームページより 内風呂の写真)

しかし、送りのバス出発時刻である21時となってしまう、懇親会は一旦お開きに。

引き続き、21時30分からは別会場にて二次会が開かれ、冒頭、過日亡くなられた板山賢治氏への献杯を行いました。懇親会で用意した酒がなくなってしまったとのことであり、おつまみも含めて、幹事が外に買いに行く一幕もありました。

ここでも、社会福祉の地域づくりについて熱い論議が交わされ、夜は更けていったのでした。

－ 秋季セミナー第2日目－

10月6日(日)は、例年通りの秋季セミナーとなりました。ただ協力者の何人かは2日目も参加してくれました。

9時からは、和光学園の見学をしました。山崎理事長(研究科86期生)が概要説明をしたのち、広い敷地内を案内をしてくれました。また川瀬施設長(学部23期)の発案で、限定6名様がガラス製作の体験をしました。

続いてバスは、田中酒造亀甲蔵へと向かい、参加者は、寺尾杜氏案内の許、蔵の中の見学し、待望の試飲を楽しみました。「旨い」と、大橋会長が4合瓶を買い求め、「これ、昼に呑もう」と提供してくれました。



(田中酒造さんホームページより亀甲蔵全景)

その後、海陽亭、運河南側、さらには日本郵船、運河北側、北海製罐、博物館、小樽駅などのお決まりの観光コースを周りました。途中、伊藤さんが解説を入れる場面も見られました。



(藪半さんホームページより 店舗入り口の写真)

昼食会場は、小樽駅前にある藪半という有名な蕎麦屋さん。

蕎麦の前に、幾つかの自慢の蕎麦料理を楽しみながら、参加者は各々の近況報告を行いました。途中、女将、ご主人それぞれのあいさつを受け、蕎麦の蘊蓄を披露し合う場面もありました。そして、30人の参加者がいよいよ解散する時刻

となりました。伊藤さん、大橋会長などは、これから新千歳に向かうため、参加者全員が馬の銭（ウマノハナムケ）のために、ぞろぞろと小樽駅へと向かいます。そして、一人ひとりと握手をして、伊藤さん、大橋会長らは、歴史的建造物である小樽駅の改札を潜ったのでした。

(なお、「おたる AtoZ」のHPには別文、写真も掲載しています)



(小樽市ホームページより 小樽運河)

日本社会事業大学同窓会北海道支部「アガペ」2013年10月30日発行 第5号
より抜粋